

UP TRANGO XC2

エクスアルプス2011でトマ・ココネアが使った

謎のプロト機がついにベールを脱いだ。

過酷なコンディションで磨き抜かれたそのパフォーマンスは一級品!

求められる全てを高い次元でバランスさせたTRANGO XC2は

ハイエンドCクラスに旋風を巻き起こす!

戦闘力すら備えたハイエンドCクラス機!

あの翼がついに姿を現した!
昨年開催されたレッドブル・エックスアルプス2011は、日本国内でも特集番組が放映されパラグライダーの魅力を多くのオーディエンスに伝えてくれた。その中でも果敢にチャレンジして2位でゴールしたトマ・ココネア選手の活躍に感銘を受けた方も多いだろう。

人間機関車の愛称を持つトマは走りばかりが目されるが、今回のレースでは着実にフライト比率を高めてい

た。特に9日目は堂々たるフライトで92kmを飛び、難所と言われる6つ目のターンポイント、マッターホルンをあっさりクリアして見せた。この日のビッグフライトがなければ、最終日の歓喜は成し得なかった。
ゴールまでの14日間、総移動距離1807kmの実に45%(826km)をフライトした。彼のフライトを支えた真の白なUPプロトは、レースのフィードバックを受けて「トランゴXC2」の名を与えられ登場した。もちろんエックスアルプス仕様は超軽量モデルだった

が、シリアルモデルでは総合的な使い勝手を考慮した仕様が与えられている。
高い完成度でDクラスの性能とCクラスの扱いやすさを!

2010年末、UPはチーフデザイナーとしてフランティセック・パウロウセックを迎えた。それまでのUPはやや大きめの翼面積で、独特のフライトフィーリングを持ち味にしてきた。しかし2011年の彼の一作目となるサミットXC2(EN・C)では、翼面積を小さくすることで、操縦のし易さと安全性というUPの基本理念に加え、より広い層が好むフライトフィーリングを与えることに成功している。以降、タンデム機のK2、マカルー3(EN・B)と立て続けにニューモデルを投入し、着実に新しいラインナップを整えている。
フラッグシップのトランゴシリーズは、コンペからクロカンなどオールラウンドに使えるDクラスモデルだったが、最新技術を投入し入念なセッティングが行われた結果、何とすべてのサイズでCクラス(EN)認証を取得した。サイズによって比率は若干異なるが、翼面積を先代トランゴXCから3~7%ほどダウンサイジング。アスペクトレシオは投影4.8、実測6.8と、従来のDクラス相当の高い数値を与えている。



UP最新テクノロジーが満載
今回は宇都宮のAKAWAエリアで、SMサイズ(飛行総重量75~95kg)にはぼ中間に相当する82kgで試乗した。なお、メーカーでも飛行総重量の中間付近で乗ることを推奨している。

練習場でキャノピーを広げた最初の印象は「小さい」というもので、新しいコンセプトが現れている。キャノピーの素材は上面にスカイテックス39g/m²、下面にスカイテックス32g/m²、ラインは4種類(1.3/1.2/0.8/0.5mm)のEdelrid/Technoraラインを使用している。ライン構成は完全な3ライナー化により、総ライン長を20%ほど少なくすることに成功した。

練習場でキャノピーを広げた最初の印象は「小さい」というもので、新しいコンセプトが現れている。キャノピーの素材は上面にスカイテックス39g/m²、下面にスカイテックス32g/m²、ラインは4種類(1.3/1.2/0.8/0.5mm)のEdelrid/Technoraラインを使用している。ライン構成は完全な3ライナー化により、総ライン長を20%ほど少なくすることに成功した。

超機嫌なフライター!

練習場でキャノピーを広げた最初の印象は「小さい」というもので、新しいコンセプトが現れている。キャノピーの素材は上面にスカイテックス39g/m²、下面にスカイテックス32g/m²、ラインは4種類(1.3/1.2/0.8/0.5mm)のEdelrid/Technoraラインを使用している。ライン構成は完全な3ライナー化により、総ライン長を20%ほど少なくすることに成功した。

空中で感じる安定感、浮きの良さ、軽快な速度感、正確な旋回など、すべての特徴は予想を遙かに上回る高感触を持った。
特に翼剛性の高さが抜群の安心感を与えてくれる。翼を見上げてみるとスパン方向に4重に縫い込まれたサポーターが目に入るが、これが高い翼剛性を生み出す一因になっている。翼の剛性感に対して翼端の柔らかさが少々気になった(UPは「Tappo」と表現)が、クラバットのリスクを避けてナイロンロッドは最小限に止めた結果で、気にする必要はま

たたくなさをうた。トリムスピードは約38~40km/hと速度感が心地よい。アクセルは軽く快適、片足でもストレスなく使用できる。このクラスに乗るパイロットはポッドハネスを使用することが多いが、このセッティングは大歓迎だ。フルアクセルは約55~57km/h(アークセルのストロークは14cm)で、単純な高速化を図るのではなく、Cクラス取得を実現したス

ピード設定となっている。トランゴXC2は、コンペやクロカン、フリーフライトに力を発揮できるオールラウンドな総合力が最大のセールスポイント。一度試乗すれば決して忘れられない強烈なインパクトを受けるに違いない。
お薦めのパイロット像
「安全マージンをもっと欲しいがパフォーマンスは棄てがたい」と考えている、Dクラス機に乗り慣れたパイロット。あるいは現在Cクラスに乗り込んでいて、より積極的なフライトを狙うパイロットにとって、トランゴXC2は最高のチョイスになるだろう。
一方、BクラスからステップアップするパイロットにはサミットXC2がある。Cクラスの認証を受けているが、あくまでもパフォーマンスはDクラスであ



ハイアスペクトにもかかわらずスクール機のような自然なテイクオフ特性。これからのUPのセールスポイントになるだろう。



長いナイロンロッドで形成されたリーディングエッジは、Bライン取り付け部分まで伸びている。



ライザーはシンプルな3本をベースに、分岐するAラインの翼端側やスタビライザーはダイニーマを使用。Cライザーコントロールを可能にするプラスチックボールが取り付けられているのも、高い飛行性能を予感させてくれる。

TRANGO XC2

サイズ	S	SM	M	L
翼面積(投影) m ²	18.5	19.7	21.4	23.5
翼面積(実測) m ²	22.3	23.7	25.8	28.4
翼幅(投影) m	9.4	9.7	10.1	10.6
翼幅(実測) m	12.3	12.7	13.3	13.9
アスペクト比(投影)	4.8			
アスペクト比(実測)	6.8			
飛行総重量 kg	60-80	75-95	90-110	105-130
速度 km/h	40-58			
安全規格(EN)	C			
標準小売価格	¥598,000 → ¥418,900			

※製品仕様は予告なしに変更になる場合があります。

製造元: UPインターナショナル/ドイツ
輸入・販売元: 南さんじゅう
〒321-0341 栃木県宇都宮市古賀志町1796-1
[TEL] 028-652-5531 [FAX] 028-652-5532
[E-mail] info@sanjuu.com
[URL] http://www.sanjuu.com/